

令和5年度 第6学年 授業改善推進プラン

	伸ばしたい力(児童の実態、学習状況、指導の実態より)	改善プラン(課題の改善プラン、具体的手立て)
国語	- 登場人物の心情や場面の様子を叙述に即して読み取る。 - 目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理して書く。 - 文章の中で既習の漢字を使いこなす。	- 友達と交流し考えを共有する機会を設け、読み取りの正確性や読み取りへの自信をもたせる。また、情景分析から、登場人物の心情が読み取れることに気付かせていく。 - どのように書き進めていくかの見通しがもてるよう、<u>参考となる資料を提示</u>する。また、伝わりやすい文章にしていけるための定型文を作成し、活用する。 <u>定期的に漢字の小テストを行う</u>ことで、漢字の定着を確認する機会を増やす。
社会	- 知識として必要な用語の定着。 - 単元(小単元)の終末場面で、社会的事象を関連付けたり、総合させたりして考える。	- 習得しておかなければならない最低限必要の<u>用語や語句をリストアップ</u>し、日々の授業で意図的に指導する。 - 小単元の終末場面では、学習の振り返りを行い、学習の流れを確認しながら、学び直しにつながるようにする。
算数	- 基礎的な知識や技能の習熟。 - 文章問題を正確に読み取り、立式する。 - 自分の考えを人に伝わるような図や式に表し、それを自分の言葉で説明する。 - 答えを導くだけでなくその根拠を説明する。	- 朝学習の時間を活用し、「東京ベーシック・ドリル」を用いて個に応じた技能の習熟を図る。 - 課題解決の際、わかっているもの、求めているものがそれぞれ何かを確認する時間を設ける。 - 児童が互いの解決方法や考えにすすんで関わり、共有できるよう発問を工夫し、説明や話し合い場面の充実を図る。
理科	- 理科における問題解決学習の流れ(学習課題→予想→実験・観察→結果→考察)を身に付ける。 - 考察時、結果をふまえて自分の考えを表現する。	- 身近に存在するものや、生活場面につながるものを教材化し、実感のある学びを意識して授業を展開する。実物の用意が難しい単元は、ICT教材を効果的に活用する。 - 予想を立てる時間を確保したり、その予想の情報共有を単元ごとに行ったりしていくことで、根拠をもった予想を立てることができるようにする。 - 単元の系統性や一時間ごとのつながりを意識した指導計画を重視し、児童の思考に沿った問題の設定や導入場面を工夫していく。また授業の終末には「次に行うべき実験・観察や、行いたい実験・観察」を児童から引き出すことができるようにする。
音楽	- 歌詞に込められた意味を考え、自分の思いをもって合唱する。 - いろいろな楽器を演奏することや、みんなで合奏することを楽しむ。 - 感じたことを表現する。(鑑賞)	- 歌唱に関しては、歌詞に込められた思いや曲の構成を考えるなどして歌い方の工夫をしていく。 <u>ICTの活用</u>で、リコーダー、楽器の練習の仕方を工夫する。 - 鑑賞について、思ったことを表現しやすくするために、<u>ICTの活用</u>を考えていく。
図工	- 積極的に活動に取り組み、自分の作品をより良いものにしていこうとする。 - 表現活動を深める、広げる。	同じ目的に向かって協力してモノづくりを行う授業を取り入れ、自分のできることを生かして制作する楽しさも伝えたい。ICTを積極的に活用していく。
体育	- 運動への関心や意欲を高める。 - 学習の課題や自分のめあてを意識して取り組む。	- 単元の導入では、その運動の「楽しさ」やそのためのポイントを伝え、意欲的に取り組めるように言葉掛けを行う。 - 振り返りカードを活用し、授業を振り返り、「何ができて(分かって)、何が次の課題なのか」明確にできるようにする。また、授業の終わりには振り返りの時間をつくる。 「課題を見付ける→解決する→新たな課題を見付ける」という流れをどの運動領域でも展開して、統一感のある指導を行う。
家庭	自分の生活を振り返り、学習したことを生活場面に生かすための方法を考える。	身近な生活場面や自分の将来像をより明確にイメージできるよう具体的な事例や教材を用意し、実感のある理解を促す。また、学びを実践できる授業をより多く展開していく。
外国語	- 意欲的に学習に取り組む。 - 難しい表現や音声の流れでも、諦めないで取り組む。	- ゲーム的活動を通して、楽しみながら基礎の定着を進めていく。 - 音声に耳を傾けられるように、上手にヒントを出しながら、単語を予想させて授業に参加させる。
道徳	自分の意見もち、また、友達の考えを受け入れて高め合っていく。	道徳的価値を多面的・多角的な見方で考えられるようにするため、教材の特性や児童の実態を踏まえた<u>少人数グループ</u>による話し合いの場を設定するようにする。また、振り返り活動を行い、自分自身と向き合う時間を確保する。